

L I N D E N B A U M N O . 2

梅雨が明け、いよいよ猛暑の夏がやってきました。野岸祭行事も終わり、3年生にとっては自分自身の将来への夢に向かう大切な進路が目の前の現実となってきます。

そこで今回の通信では、今春、音楽科を卒業された先輩方と保護者の皆様より、その体験談や大学入学以降の学生生活の様子を通して、これから進学を希望される方々へのアドバイスともなる貴重な原稿を寄せていただきました。3年生のみならず、1年生、2年生の皆さんも自分の進路を検討するうえで参考にさせていただきたいと思います。

1. 卒業生からのアドバイス

桐朋学園大学 音楽学部

みなさん、こんにちは！

現在私は、桐朋学園大学音楽学部で勉強しています。私がこの大学を受験するとしっかり決めたのは、高校3年生の春です。師事していた先生の勧めで、高校1年生の時から桐朋学園大学付属の音楽教室に通ったり、高校2年生から冬期講習に参加する中でたくさんの刺激を受け、この大学でもっといろいろなことを勉強したい！と思うようになりました。受験すると決めてからは、とにかく必死でした。桐朋学園のピアノ専攻は一般入試のみなので、チャンスは一度しかありません。その一回にすべてをかけるのは、とても難しいことでした。どれだけ上手くても、その一回で自分の演奏が出来なかったら意味がないと思います。だから私は、何度も人前で弾く練習をしました。人前で弾くといつも通りにいかない、というのは誰もが経験したことがあると思うし、本番への思いが強ければ強いほど緊張すると思います。コンクールや発表会など大きい舞台はもちろん、弾き合い会など小さい形でも何度もやりました。その成果もあり、本番では緊張していても自分の演奏をすることができました。技術を磨くだけでなく、自分の力を発揮するための準備も大切だと思います。私はこの大学に入学して、本当によかったと思っています。正直、周りのレベルが高く、ついていけないのかという不安や焦りは未だにあります。でも、それ以上に得るものは大きいし、すごく充実した生活を送れています。ここまで来るには、決して一人の力では無理だったと思います。たくさんの先生方や、同じ目標に向かって頑張る友達、そして家族の理解があったからだだと思います。その感謝を忘れずに、これからも上を目指していきたいです。

国立音楽大学 音楽文化教育学科

私がこの大学に行きたいと考えたきっかけは高校1年生のときの音楽科にしかない研修旅行でした。この研修旅行で大学を見学させてもらったのですが、キャンパスがとても綺麗で設備も整っており、その素晴らしさに圧倒され「行きたい！ここの学生になりたい！」と思うようになりました。また、私は幼い頃から幼稚園教諭になるのが夢で、この大学には幼児音楽教育専攻があるということを知り、音楽もさらに勉強できるし、幼稚園教諭になるための勉強もできるということで、ここなら私の夢が叶えられると思いここの大学に決めました。進路を決めてからは毎日の授業やテスト、レッスンを大切にしてきました。特に推薦を狙っている方は普段の生活が大切なので勉強やテスト、レッスンを大切にしてください。勉強が苦手な方、テストが嫌いな方沢山いると思います。私も高校生の頃はテストが嫌いでした。勉強したくないなと何度も思ったことがあります。ですが大学生になった今、勉強できるのは高校生までなんだなと気付かされました。大学はもちろん音楽の勉強ができるのですが、それ以外の授業はほとんどありません。基礎的なことを教えて下さる先生もいますが主に応用なことを教えて下さいます。なので、みなさんには勉強できる今を大切にしてください。また大学生になって思うことがあります。それは、高校に通っていた時には気づけなかったのですが、小諸高校の音楽科がいかに設備が整っていて内容の濃い授業が受けられていたかということです。音楽棟にある練習室、レッスン室、ソルフェージュ室、音楽ホールを、私が高校生の頃はそれを当たり前のように思っていました。朝は8:00前には学校に来て当たり前のように練習室を借りてピアノや歌を練習し、レッスン時間になるとわざわざ遠いところからレッスンの先生が来られて内容の濃いレッスンが受けられる。さらに、授業では楽典、ソルフェージュ、音楽史などといった音楽科ならではの授業が受けられる。それがどんなに素晴らしいことか、ありがたいことか、大学生になった今、改めて気付かされました。なので、在校生の皆さんは今ある環境や練習できる毎日を大切にしてください。また、少しでも行きたいと思う大学があったら3年生に限らずオープンキャンパスや講習会に積極的に参加してみてください！高校生活は本当にあつという間なので1日1日を大切に過ごしてください。応援しています！

国立音楽大学 演奏・創作学科 声楽専修

みなさんこんにちは！私は4月に小諸高校音楽科を卒業して国立音楽大学というところに演奏・創作学科声楽専修1年として通っています。今回は後輩の皆さんのお役に立てればとLindenbaumの原稿依頼を引き受けさせていただきました。私が国立音楽大学を意識し始めたのは小学生の時に国立の卒業生である母の影響からでした。そして、その想いのまま高校に入学し本格的に大学を目指し始めたのですが、一時期別の大学に気持ちが揺らいでいた時期がありました。家族も主専の先生も私の気持ちを尊重してくれていたのですがとても悩みましたが、「ここまで目指してきたんだから」という思いからまた国立を目指す決意をしました。ですが、3年生になりもうひとつの壁として父と経済面についてぶつかりました。私は毎日父のことを説得しました。私立の音大を

目指す皆さんはしっかりお父さんお母さんと何度も話し合ってください。お金を払ってくれるのは親です。そして受験に向けての準備は特別なことは私は何もないのですが、2年の冬の冬季講習と3年の夏期講習には参加しました。大学の雰囲気もつかめるいいチャンスなので参加できるようにあればの方がいいと思います。あと、毎日の授業も真面目に出席して普通のレッスンを大事にしましょう。そして、私は部長も任せていただいていたお陰で指定校枠をいただき受験も成功し、合格できました。あと、これは失敗談ですが受験の時とにかく安いホテルを選んで予約したのですが、土日に朝食が出ないことを知らずに泊まってしまい、受験当日の朝慌てて食べられるところを探しました。少し高くてもちゃんと朝食の出るホテルに泊まった方がいいですね。あと、飲み物を買うのを忘れてしまい緊張のあまりに喉が渴いても飲めず一生懸命に口をもぐもぐして唾液でしのぎました(笑)

昭和音楽大学 音楽芸術運営学科 ミュージカルコース

みなさん、こんにちは！私は現在、昭和音楽大学 音楽芸術運営学科 ミュージカルコースで演じ、歌い、踊り三昧の楽しい大学生活を送っています。私がこの大学を受験するのをしっかり決めたのは高1の夏です。ミュージカル俳優になりたいと思い、中学2年で音大のミュージカルコースを目指すことは決めていました。進路決定は早かったので、1年の頃から受験に向けて、声楽、ダンスやバレエをコツコツとやり、ミュージカルコースは歴代初で情報が少なかったので調べまくりました。2年からは冬期講習会や大学の先生のヴォーカル個人レッスンを受けたりしていました。志望校が定まっていなくても、1年生からいろんな大学の講習会やレッスンに行くのはオススメです！刺激を受けてスキルアップに繋がります。私はいろんな先生に習うことが苦手だったのですが、思い切って大学へレッスンに行ってみたら、当時、小諸で師事していた先生に指摘されていたことを違う角度から同じことを指摘されました。そこで初めて「あの時、(小諸の)先生が言いたかったのはこのことか！」と気づけたのです。いろんな先生に習うとそれだけいろんな発見が出来ます。みなさんもパニックにならない程度に、たまには違う先生に習ってみるのもいいですよ。あとは、他の人も書いていると思いますが、練習あるのみ。ただ練習室に何時間こもって練習するのではなく、録音(出来れば動画)をとって、窓の方を向いて常に大きなホールで演奏している自分を思い浮かべながら、1時間練習する方が集中出来るし、何倍も効果あります。これをやることによって、専攻試験や受験でも少しは緊張がほぐれますよ。お試しあれ！

私も夢を追いかけている真っ最中ですが、皆さんのこれからの生活に少しでも参考になれば嬉しいです。応援しています！

東京音楽大学 器楽専攻 コンポーザー=ピアニストコース

自分は現在、東京音楽大学、器楽専攻、コンポーザー=ピアニストコースでピアノと作曲を学んでいます。ピアノと作曲の両方を学べるこのコースができたのはちょうど自分の年からで、色々な方向から音楽を学びたいと思っていた自分にとってとても魅力的なコースでした。特殊なコースなので皆さんの参考にならないとは思いますが、自分が受験生の時期に考えていたことなどを簡単にお話ししたいと思います。まずはピアノについてですが、自分の受験生としての心構えはま

ったくできていなくて、なかなか必死になれませんでした。高校3年の秋頃に人前で大きく恥をかいて、ようやく気持ちが引き締まりました。しかしやっぱりそれでは遅くて、東京音大の受験を終えて、たくさん落ち込んで、後悔しました。こんな人はいないと思いますが、みなさんは絶対後悔しないように、早めにスイッチを入れて頑張ってください。そうすればきっと受験は乗り越えられます。次に、これは作曲を学んでいる立場からして、音楽理論、ソルフェージュ、または和声など、一見それぞれの専門の楽器に関係の無さそうで、嫌いな人も多いと思います。ですがみなさんがこれから、さらに音楽を楽しむために、とても必要なことだと思います。理解が深まれば深まるほど楽しいし、自分の楽器にも生きてくるでしょう。後悔しないように頑張ることも大事ですが、1番言いたいことは、とにかく音楽を楽しんでください。こんな自分でもこまめでこれたのは常に音楽を楽しんでいるからです。応援しています！

東京藝術大学 音楽学部 器楽科

皆さんこんにちは！私は昨年度小諸高校を卒業し、4月から東京藝術大学で勉強をしています。今回はこのような原稿依頼をいただきましたので、受験をした時の体験談と大学に進学して感じたことを書かせていただきます。

私は吹奏楽部に所属していて、引退するまでは正直部活の事で頭がいっぱいでした。9月に部活を引退して、急に受験生という大きな肩書きを背負ったような気がしてそれまでの自分の緊張感のなさに焦ったのを覚えています。学校の先生方にも言われることですが、受験という目標に向かって準備をするのは早ければ早いほど良いということを痛感しました。実際、自分で自分を良い意味で追い込んでいくのはとても難しいことだと思います。しかし、毎日少しずつでもいいので何か1つのことを継続してみてください。その事実が必ず自分に自信を持てる理由になるはずです。次に、受験について具体的にどのような準備をしたかをお伝えしたいと思います。実技は各専攻によって違うと思いますので皆さんに関わることを中心に書いていきます。東京藝大の場合は一般入試のみなので、実技試験が2月後半以降になります。そこで、まず最初の試験になるのがセンター試験です。私は、学校で行われるセンター対策の補習と家庭学習で勉強をしました。音楽大学となると実技が良ければ…という気もしてしまうかもしれませんが、実技はもちろん磨いていくとして、センター試験の結果も必ず見られます。もし実技でハードルをクリアしていても、センターでふるいにかげられるようなことがあるとしっかり対策をしておけばよかったと後悔するようになりもったいないと思います。私は実際にセンター試験直前になって焦って勉強をしたので、皆さんぜひ計画的に勉強をしてください。それと、実際の試験会場で行われる模試が秋頃あるのでそれは受けた方が良いでしょう。会場までの道のりや、部屋の様子、知らない人ばかりの中でテストをする緊張感、いろいろなことがわかるのでその模試は受けて良かったなと感じました。わからないことは積極的に教科担当の先生に聞きに行くのも良いでしょう。続いて、ソルフェージュと楽典についてです。この2つもセンター試験対策と同じように、学校の授業と補習で本番に備えました。私は特に初見視唱が苦手だったので、タイミングを見つけて音研の先生方をお願いして聞いていただいたりもししていました。先生方もきちんとお願いすれば必ず快くみてくださるので、ソルフェージュ関係のこともたくさんご指導をいただくと良いと思います。

す。楽典についてはとにかく過去問をやることです。学校に音大試験問題集がたくさんあるので、それをコピーして徹底的にやりましょう。私もそうだったのですが、実際の入試に今までとは傾向が全く違う問題が出たりすることもあります。そういったときには高校3年間の授業でやったことの応用力が活かせると思うので、わからないまま放っておいてしまったところは復習をしておくことをおすすめします。そして、重要なのは気持ちのあり方です。常に全力で、でも無理をして体調をくずさないように、試験当日には万全な状態で自信を持って臨めるよううまくイメージトレーニングをたくさんすると良いと思います。あとはたくさんの練習時間、勉強の合間で少しの息抜きも必要です。私はちなみに毎年初詣には行っていなかったのですが、去年は3ヶ所も行きました。(笑)神頼みでもいいので、うまくモチベーションを保っていけるといいですね。もし、何かわからないことがあれば必ず調べたり、先生や先輩に質問をしてみてください。しっかりとした情報を得た上で対策を出来れば1番効率が良いです。最後になりましたがこのお便りが少しでも皆さんのお役に立てれば嬉しいです。応援しています！

東京藝術大学 音楽学部 器楽科

こんにちは！私は昨年度小諸高校音楽科を卒業し、現在東京藝術大学にてトランペットを学んでいます。私は中学の時から東京藝術大学に入りたく小諸高校に入学したので、ただひたすら3年間藝大入学を目指して頑張ってきました。3年の進路選択の時期に、志望校が早く決まっていたことは救いだったと思います。受験までの期間、私は吹奏楽部に入部していたので大勢で吹くことがたくさんありました。同じ楽器にもいろんな人がいて、それぞれ吹き方や音質も違うし考え方も違います。だからこそ1人でいては気づけないことを気づかされて、それが楽器の向上に繋がっていました。1人で練習していたら受かっていなかったかもな…とさえ思うくらい私にとって吹奏楽部の経験は大きかったです。ソルフェージュや勉強についてですが、センター試験の結果をみられるのは3次試験ですが、そこまで来てセンターの点数で落とされてしまうのは本当にもったいないです！そういう人もたくさんいるので勉強はちゃんとやっておいた方がいいと思います。ソルフェージュは学校のソルフェージュと理論をしっかりとやっておいた方がいいです。細かいことは過去問などをみて積極的に先生方に相談するといいと思います！受験当日は演奏前に待っている廊下とかも寒いのでカイロは絶対持ってきた方がいいです。演奏は堂々と！一次試験から二次試験の間が長くて、私はその間に三送会と卒業式に参加して、良い意味で緊張がほぐれて良かったのですが、気持ちが抜けてしまわないように二次試験まで気持ちをもっていけるといいと思います！二次試験の発表後、三次試験は次の日なので理論などの勉強道具を忘れずに！進路が決まったら、すぐ行動にうつせたらいいですね。今頑張れば楽しい大学生活が待っています！ぜひ希望校に入学できるように、頑張ってください！

2. H25年度 卒業生保護者アンケート回答内容

A 様

1. 御子弟の進学先

桐朋学園大学 音楽学部 ピアノ専攻

2. 志望校の決定時期

高校3年の春

3. 志望動機および決定理由

師事していた先生の出身校であり、附属の音楽教室でレッスンを受けていたので、大学の話は良く聞いていました。高校2年の冬期講習に参加してから本格的に考え始めたようです。

4. 学習方法(一般教養含)

実技は高校3年になってから月一回大学の先生のレッスンを受けました。ソルフェージュ、楽典は高校の授業の他に音楽教室で受験用のレッスンを受けていました。

一般教科(国語・英語)は大学のHPに載っている過去問題を中心に勉強しました。

5. 受験に要した費用(受験準備・受験時・受験後入学費用)

高校3年からの受験準備(大学でのレッスン・講習・交通費)25万くらい

受験時: 受験料5万円

宿泊交通費7万円(宿泊5泊+大雪で帰れず2泊追加)

受験後: 入学時納入金195万円

6. 合格から入学までのアドバイス(住居探し、心構え等)

住居はピアノを使用することができて条件の良い物件を探すのは難しいと思い、12月のうちに探して予約しました。家賃は合格後4月から良い学生会館に決めました。

ピアノの搬入は専門業者に頼むので、日数がかかりかかります。早めに相談した方が良いでしょう。

7. その他(進路決定や受験までの心構え等)

受験までは練習練習の日々でした。大変だったと思いますが、合格できなくても自分に必ずプラスになると信じて頑張ってきたようです。担任の先生をはじめ、音楽科の先生方にはアドバイスをいただき、応援して下さったことに心から感謝申し上げます。

B 様

1. 御子弟の進学先

国立音楽大学 演奏・創作学科 声楽専修

2. 志望校の決定時期

入学時から決めていましたが、途中他の大学も気になってオープンキャンパスにも行ったりしました。が、結局初めから志望の国立音大に決めました。(3年)

3. 志望動機および決定理由

私立の中で、声楽の先生や声楽家として卒業生で活躍されている人の多い学校だから。
大学のキャンパス・先輩の雰囲気の良い学校だから。

4. 学習方法(一般教養含)

推薦のため学校の勉強をしっかりとやり、他には実技試験の練習のみでした。

5. 受験に要した費用(受験準備・受験時・受験後入学費用)

冬期・春期講習会で、(電車を使用した場合) 5~6万円。
受験料 42,000円、特別推薦・指定校推薦で各一回ずつ上京。
入学後は前期納入分で100万ちょっと。寮費入寮時納入16万。

6. 合格から入学までのアドバイス(住居探し、心構え等)

寮に入りたいかったのと、大学は一本に決めていたのと、4年間責任を持って頑張るために指定校推薦にしました。国立は学校内に寮があり、朝夕寮食が出ます。勉強に集中できる環境にいて、今のところ良いようです。バイトがまだできませんが、他に特にお金もかからない(寮費・食事込みで61,000円)ので、親はとても助かっています。

7. その他(進路決定や受験までの心構え等)

お金のことばかり書いてしまいましたが、音大自体授業料がとても高いです。本人も親も4年間卒業までは強い意志が必要だと思います。しかしその後には学費以上のものが子どもには備わると思い、音大に進学させました。

C 様

1. 御子弟の進学先

昭和音楽大学 音楽芸術運営学科 ミュージカルコース

2. 志望校の決定時期

中学2年生の冬頃から何となく決めていて高校1年生の夏にはしっかり決めていたようです。

3. 志望動機および決定理由

中学の頃からミュージカルの道に進むことを決めており、音大もミュージカルコースのある昭和か洗足に絞っていました。師事していた先生のアドバイスもあり、原語による舞台演習に力を入れていること、素晴らしい講師陣が揃っていることが決め手となりました。(師事していた先生の尊敬する先生が教えている)また、給費生、奨学金制度が音大で一番充実していることも魅力でした。

4. 学習方法(一般教養含)

まず、学校支援機構の一種奨学生の資格を取るために、高1から内申点を意識し、一般教科も頑張って勉強していました。志望していたミュージカルコースの受験科目は、ヴォーカル、ダンス、視唱、演技に加え、給費生入試を受けていたので、給費生作文というのがありました。ヴォーカルは高校で講師の先生に3年間声楽のレッスンをしていただき、その他に、高2の冬期講習、高3の6月、9月と計3回、昭和音大の先生にみていただきました。バレエと

ダンスは、高2の春から週一で習い、受験直前にはプライベートレッスンもしました。視唱は高校のソルフェージュの授業で十分でした。演技は、数多くの舞台を観て勉強したり、実際にオーディションを受け、出演して経験を積みました。給費生作文は高3の夏休みに作曲家の本を読み、2学期に入ってから高木先生や国語の先生に何度も添削をしてもらい、合格した先輩にもアドバイスをもらっていました。

5. 受験に要した費用(受験準備・受験時・受験後入学費用)

受験準備(レッスン・講習会・交通費) 25万円程度

受験時(受験料 43,000円・交通費・宿泊費) 8万円程度

受験後入学費用(入学金・前期授業料・施設費など) 845,000円(給付奨学金がとれ、学費の4分の1の免除を受けています)

6. 合格から入学までのアドバイス(住居探し、心構え等)

指定校推薦だったので、7月頃からレッスンや講習会に合わせて、住居探し(下見)はしていましたが、11月の受験の時に仮予約をし、合格発表後の12月に契約しました。結局、大学から徒歩10分という便利な学生マンションにしました。自炊ですが、高校から寮に入っていたので、その点は大丈夫でした。でも食事付の学生寮・学生会館もあるので、何を最優先にするかで決まってくるかと思います。音大生は防音室付も大事ですね。心構えは、年内に合格が決まると、どうしても気が抜けてしまうので、声楽やピアノのレッスンの内容をレベルアップして、上京ぎりぎりの3月下旬まで濃いレッスンをして、モチベーションを保っていたようです。

7. その他(進路決定や受験までの心構え等)

進路決定は、早ければ早い方が良いと実感しています。志望する音大のオープンキャンパスや講習会などに積極的に行き、合格するイメージを膨らませることが受験までのモチベーションを上げていく秘訣だと思います。そして、信頼できる音楽科の先生方や師事している先生がいつも傍にいます。こんなに素晴らしい音楽科は他にないと思います。いつも感謝の気持ちを忘れずに頑張ってください。

D 様

1. 御子弟の進学先

東京藝術大学 音楽学部 器楽科

2. 志望校の決定時期

志望は入学当初よりですが、具体的に決めたのは吹奏楽部を引退してからです。

3. 志望動機および決定理由

担任の渡辺先生が藝大のトランペット科のご卒業なので、憧れというか入学当初から藝大へ行きたいという夢を持っていました。

4. 学習方法(一般教養含)

特に何かしたということはありません。塾も行かなかったし。ただ授業をまじめに受けてテ

ストで結果を残すためにテスト前は死にもものぐるいで勉強していましたね。ふだんは部活で勉強がまったく（笑）できなかったのです。

5. 受験に要した費用(受験準備・受験時・受験後入学費用)

受験準備は東京音大の冬期講習会くらいです。

冬期講習会 39,320 宿泊料 2万 交通費 2万 滞在費 3万 受験料 5万

藝大 受験料 2万 宿泊費 4万 滞在費 5万 合格振込 40万 学費 1年次 60万

6. 合格から入学までのアドバイス(住居探し、心構え等)

音大→藝大→合格発表→入学式

合格発表から入学式までが2週間のみでめちゃくちゃ短い。寮に入れて良かったです。住居探しをしていたら間に合わなかったかも。

心構えは、とにかく時間が足りないので、すべきことをきちんとしていくということです。

7. その他(進路決定や受験までの心構え等)

記録的な大雪で難儀をしました。

受験日程はできるだけ余裕を持った方が良いと思います。また、突発事項が起こっても親子でうろたえないのが良いかと。なんとかあります、必ず。渡辺先生が東京の上田先生にレッスンをお願いしてくれたり、宮澤先生が電車が止まったら入試開始時間が繰り下がるかもしれないので、こまめに携帯チェックしてね、とアドバイスをいただいたり、突発事項が起こっても音楽科の先生方に精一杯支えていただきました。本当にありがたかったです。幸運の連続でした。どれが欠けても合格にはたどりつけなかったと思います。先生方本当にありがとうございました。

E 様

1. 御子弟の進学先

東京藝術大学 音楽学部 器楽科

2. 志望校の決定時期

小諸高校入学時からの目標でしたので1年生の頃から志望校は変えずにきました。私立との併願も含め、最終的に決めたのは3年生です。

3. 志望動機および決定理由

難関な大学ではありましたが、叶うのならば音楽で最高のレベルの大学に通いたかったことと、経済的なことも考え、自分の目標を崩さず頑張りました。担任の先生や講師の先生も卒業生だったので心強かったです。

4. 学習方法(一般教養含)

部活もやっていたし、寮生活でしたので(食事付きではない)時間はほとんどなく先生からのアドバイスも「学校での授業を大切にしてください」とのことでしたので、他に通ったりはしていません。国立はセンター試験がありましたが、本人なりに勉強をしていました。レッスンは講師の先生のみです。通うことはしませんでした。

5. 受験に要した費用(受験準備・受験時・受験後入学費用)

受験準備(私大冬期講習+宿泊費等)約10万

受験時(国立)センター受験・交通費・宿泊費等 約13万円

大雪のため宿泊費は

(私立) 受験・交通費・宿泊費等 約9万円

かなりかかっています

受験後(国立)入学金+その他約60万円 4月になり授業料を納めました。

(私立)一度納めましたが、国立(藝大)に合格したため、辞退届を出し返金ありで30万円は納めました。

6. 合格から入学までのアドバイス(住居探し、心構え等)

私立とは併願しましたが、本命は国立だったため、今年度より新しくなった寮を希望しました。管楽器だったので防音室の部屋でもダメな部屋もありました。練習は学校でするようにして、普通の部屋を借りるのもいいとアドバイスを受けました。

国立は合格すると入学金・入寮費を納める期間が短く直接手続きに行きました。合格した後は慌ただしかったです。高校から1人暮らしをしていたため、生活についての準備は慌てずすみしました。

7. その他(進路決定や受験までの心構え等)

親元から離れての1人暮らしだったため大変なこともあり、周りの先生はじめ、お友だちやお母さん方に助けていただき本当に感謝しています。その中でも本人の意志はとても強く、最後まで諦めなかったことが合格に結びついたと思います。今年はちょうど私立の受験日が大雪で新幹線も止まりました。一日早めに東京入りする準備をしておいたにも関わらず、前日に行かぬ当日入り。それも新幹線も始発が出るか出ないか不安でしたが、なんとか始発のみ動き、(一時間遅れ)受験にギリギリ間に合いました。東京は雪の気配もなく、受験は無事に終わりましたが、その数日後に藝大の受験を控えていたので、大雪の長野に帰ってくることはとても心配になり、友人も一緒にいたので一緒にホテル生活をしました。東京で講師の先生もレッスンをしてくれたり、小諸の先生方も電話やメールでエールを送っていただき、子ども達は安心して受験ができました。1次、2次、3次、発表と17日間の藝大受験は親子ともとても不安でした。小諸高校でも何度も実技試験や演奏で積み重ねた度胸や自信は、受験にとっても役に立ったと思います。

泊まったホテルも仮の予約もでき、全ておさえながら当日15時までキャンセルがきいたので発表を見て、その後の予定に従って泊まることができたのでとても助かりました。途中卒業式もありましたが、予定が重ならなかったので出席できました。

決して忘れられない受験です。天気は必ずしも良いとは限らず、余裕を持って行動しているつもりでしたが、今回ばかりは大変でした。

親元を離れての高校生活はとても不安でしたが、今は小諸高校に感謝です。優秀な先生方、講師の先生方に恵まれ、3年間とても充実していました。

ありがとうございました。